

こけしのゆめ チャンキー松本 作 いぬんこ 絵

学研教育出版 読みきかせ時間：5分

【内容紹介】おみやげ屋さんで売れ残ったこけしの姉妹の「しけこ」と「こけみ」。二人は毎日ショーウィンドウから道行く人を眺めています。なんと二人には人の心に秘めた夢がわかっちゃうのです。さてさて、そんな二人の夢はどんな夢？そして、その夢はかなうのかな？

下諏訪町立図書館 酒井 智寿子



一〇三歳になってわかったこと

篠田 桃紅 著 幻冬舎

【内容紹介】一〇三歳となった今も第一線で活躍している美術家の本「人には柔軟性がある。これしかできないと決めつけない。完璧にできなくていい。」「幸福になれるかは、この程度でちょうどいいと思えるかどうかにある。」「人生のなかで自分が立ちうる場所、つかのま安心できる小さな場所がある。」  
……人生の楽しみは無尽蔵であり、いいことづくめの人はいない、いいことづくめの一歩もない。居場所があることに感謝。一〇三歳になってわかったことの一節が心に響きます。

下諏訪町立図書館 書評ボランティア 中村



\*図書館からのお知らせ\*

3月6日(日)、児童文学者の杉山亮さんが下諏訪の図書館で講演会を開きます。午前中は子ども中心に「ものがたりライブ」をしていただきます。午後は大人向け講演会で読書の大切さを語っていただきます。

詳しくは3月の広報でお知らせします。子どもたちに大人気の作家さんです。ご期待ください。

ほのぼの  
まちかどで

我が家の家族にメスのスピッツがいる。「犬を飼おう」と決めた時に、娘が「白い小型犬がいい！」というのでスピッツとなった。小さい頃はやんちゃで、噛み付いたりうるさく吼えたり大変であったが、十一歳になった今は本当に家族の一員として私たちを癒してくれている。  
大雪の翌日のことである。青空と雪の白さのコントラストがとても美しく、遠くのアルプスの嶺の白さと諏訪湖の青さも際立っていた。そんな暖かな陽気に誘われて我が家の愛犬も庭に散歩に出た。  
真っ白な犬が真っ白な雪をかき分けて歩く姿をほほえましく眺めていた。そんな時に娘が雪だるまをつくった。聞くと「愛犬の雪だるま」とのことである。そういわれてみるとなかなか似ている。  
愛犬も雪だるまの横に来ると「隣は誰かな？」と怪訝そうな顔。  
子どもたちも大きくなり雪だるまをつくることは無くなったが、久しぶりの雪だるまに家族みんなの気持ちがほっこりした。

(久保田利広)

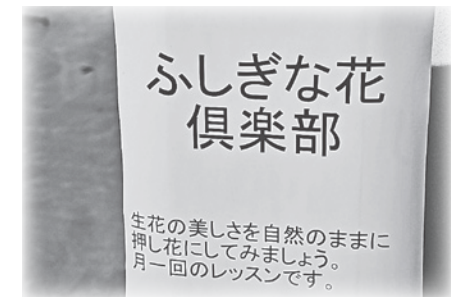
蓮(レン)



※4回にわたって、作品展を写真で紹介しています。



ふしぎな花倶楽部 (押し花)



S・DONの会 (パステル画)



下諏訪弥生水墨画会 (水墨画)



絵手紙教室弥生会 (絵手紙)



諏訪の野鳥グループ (野鳥写真)



自然探訪の会 (写真・文書)